

本物の味を伝える「母ちゃん市」

北上地方生活研究グループ連絡協議会会長

八重樫 良子さん

毎週日曜日に江釣子シヨツピングセンターパルの一角で開かれる「母ちゃん市」。北上

地方生活研究グループのメンバー（農家の「母ちゃん」たちが、自慢の野菜や加工品を売り出しています。ここで売られる品は「安全・安心・安い」と好評です。

同グループの連絡協議会会長を務める八重樫良子さん

（上江釣子は平成19年から会長に就任し、2年の任期をまもなく迎えようとしています。「食品偽造などの悪いニュースが続く、お客さんも食の安全・安心を求めている。これに応えていくことがわたした

ちの務め」と語ります。

同協議会は昭和35年に発足したもので、各地域の生活研究グループが集まって構成されています。農家の生活をより豊かにすることを目的

に設立され、現在会員は約90人。会員同士の交流はもちろん、売れる商品づくりを学ぶ講習会への参加や先進地の視察など、熱心な研究を続けてきました。

「花巻から嫁に来た当時は知り合いがいなかった。農家には暗いというイメージもあるし、家に閉じこもっていたもだめだと思い、地元的生活研究グループに参加しました。一人ではできないけれど、目的が同じ人たちが集まれば行動力も生まれる。教え合い助け合いながらやっています」



と、これまでの活動を振り返ります。

会員の持つ技を次世代に伝えようと、この2年間で手作りの豆腐・みそ作り講座を開催。「参加した若いお母さんから、赤飯の作り方も教えてほしいと頼まれました。作り方を知っているとその知識も途絶えてしまう。核家族も増えているし、わたしたちが手作りの良さを伝えなければ」と意気込みます。

母ちゃんの味を知りたい人は、母ちゃん市へどうぞ。



2月と11月には母ちゃん市スペシャルを開催。さらに充実した品ぞろえとなります



国際交流ルーム発

ハロー！ まいぶんんど 114

ハッピーバレンタインデー・ワークショップ

バレンタインデーにチョコレートを贈る習慣が日本で定着してから50年程経つといわれていますが、女性が男性にチョコレートを贈るのは、日本独自の習慣です。欧米では、恋人や友達、家族などがお互いにカードや花束、お菓子などを贈ります。

今回は国際理解の観点で、普段何気なく食べているチョコレートから、わたしたちと世界とのかかわりを知る「ハッピーバレンタインデー・ワークショップ」を開催します。小学生でも理解できる内容で、^{*}フェアトレード・チョコレートの試食もあります。

^{*}フェアトレード＝貧困のない社会にするため考えられた貿易の仕組み。チョコレートは主にアフリカで生産されたカカオが原料になっています。



昨年盛岡で行われたチョコレートのワークショップ

- ▷とき…3月7日(土)午前10時30分～午後0時30分
- ▷ところ…生涯学習センター・第一学習室
- ▷講師…花巻市立成島小学校教諭・藤澤義栄さん
- ▷定員…30人(先着順)
- ▷参加料…無料

国際交流ルーム

電話・ファクス：63-4497

電子メール：kiah@kitakami.ne.jp

おでんせプラザぐろーぶ3階 生涯学習センター内

開館日：毎週月-土曜日 午後1時-7時

休館日：日曜・祝日、第3水曜日、年末年始



中央図書館 ☎ 63-3359
江釣子図書館 ☎ 77-2215
和賀図書館 ☎ 72-2322

きたかみ物産館

世界がもし100人の村だったら 完結編	池田 香代子
60歳からの古文書独学	片山 正和
凜としたシニア	榊原 節子
自家製味噌のすすめ	石村 眞一
日本の暖簾	高井 潔
みんなの大相撲	田代 良徳
「源氏物語」の色辞典	吉岡 幸雄
働くアンナの一人っ子介護	荻野 アンナ
スパイと公安警察	泉 修三

心を癒やす繭細工
繭花まゆばな



《2月の新着本から》

『回復力 失敗からの復活』
畑村 洋太郎 著
講談社

「しまった」という気持ちが人を成長させる。自分の回復力を信じ、待つことができれば、必ず壁は乗り越えられる。苦境に潰されない、ちょっとしたコツを失敗学の第一人者が伝授。人は誰でも失敗する、大切なのはそこからだ！

『育休パパになろう』
とも 著
文芸社

子育てを母親にばかり任せっぱなしは、もったいない。子育てを通して、ビジネススキルは身に付けられる。ワークライフバランス実現のヒントが満載。「男性の育児」のモデルケースのエッセイ。



更木しらゆり会

更木32-432
☎66-4473(事務局)

▶▶ 35



代表 福地 実栄 さん(左)

織細で上品な質感

繭で作った市の花「しらゆり」と展勝地の「さくら」の花をアレンジして、アクセサリーやブーケ、壁掛けなどを作っています。花びら1枚からすべて手作り。繭の持つ独特の温かみとぬくもりが伝わるよう丁寧に作り込んでいます。北上を思い、感じさせられるものをと心を込めて作られた逸品です。ふるさとのおみやげにどうぞ。

散歩道

105

北上市長 伊藤 研

チョココレート

おなかを壊して絶食を命ぜられた。三日も続くとさすがに辛い。サラリーマン時代忙しくて昼食を抜いた先輩が、栄養補給にチョココレートをかじっていたのを思い出し、あめをなめチョコをかじった。

25年ほど前アメリカに旅したとき、お土産に今では簡単に手に入るゴディバのチョココレートを要望され、探し求めてニューヨークの五番街でやっと手に入れたときはうれしかった。そしてベルギーがチョコの本場であることを知った。なぜベルギーが？古い時代コンゴを植民地にしていたから特産品に作りあげたのだからか。後年ベルギーに旅して、この疑問が解けた。ゴディバや王室御用達のチョコが多くあったので、お土産に求めうんちくをかた

むけつつ自慢して配ったが、先日新聞の国内人気ベストテン記載は未知のものばかりだった。興味を持ってデパートの売り場を見て、高級なチョコの多さと高額さにも驚いた。しかも女性には飛ぶように売れている。おじさん族のデータは古く、時代に取り残されてしまったかな。

ゴルフを始めたころ、プレーで負けるとチョコで精算するのがルールで、売店には常備されていた。大勝ちするとチョコお汁粉が出るほど獲得し、女房へのお土産にと喜々として帰路についたが、今やその風習はない。バーでウイスキーのつまみはチョコスティックやキッスチョコが出されることもあるが、焼酎ブームになって変わりつつある。おじさん族が時代を変えてしまったのかもしれない。今年のバレンタインデーの義理チョコの単価は下がったとニュースは報じている。時代の流れに若者と女性は敏感に反応する。それにつけても今日のチョコは少し苦かった。